1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570801187				
法人名	有限会社 岩国メディカルサポート				
事業所名	グループホーム かえで	グループホーム かえで			
所在地	山口県岩国市南岩国町四丁目59番5-1号				
自己評価作成日	令和2年12月24日	評価結果市町受理日	令和3年5月13日		

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:29)

評価機関名 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク				
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1	1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年1月18日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長寿を喜ぶだけでなく、ご入居者様一人ひとりを尊重し、喜びや満足笑顔のたくさんある生活を支援しています。

(考え方)「認知症」に対する考え方は、「個性」と同じと考えています。又は、家族の思い(愛)が試される機会。当人には試練又はご褒美と考えています。「一期一会」が何度もあるなんて、羨ましいと思いませんか?「認知症」の方は、「不安感・孤独感・疎外感」の中で常に葛藤しており、「安心ができる環境(人・物・場所)と、当人を必要(役割)とする」だけで、穏やかでその人らしい生活が送れると考えています。

(接し方)まずは、その人の「性格・習慣・生活歴・趣味」を良く知る。「お客様」扱いはせず、「家族」として接します。家事もして頂きますし、感情、喜怒哀楽)も出して接しています。家族の一員としてもちろんケンカ(口論)もします(根のあるケンカはしません)。ケンカが終わると普通に話もしますし、大笑いもします。人間ですから、笑いだけで和やかに生活するのは不自然ですし、「喜怒哀楽」の感情を出す事で、脳を刺激できるように工夫もしています。

(体制)管理者1名(介護支援専門員で専従、計画作成担当者・介護従事者も兼務)、計画作成担当者5名(介護従事者も兼務)、介護従事者20(内、常勤11名 [内2名は兼務)・非常動14名、看護職員4名(介護従事者と兼務3名、提携医院より派遣1名)職員会議(内部研修も含み)、積極的な外部研修参加を実施。当施設の他部署の専門職員(看護師・介護支援専門員等)との情報交換を密にし、様々な専門的見地からの意見も取り入れています。

(交流)・ご家族の方々とは、面会時やお電話お手紙等により情報交換に努めています。・地域の方々とは、2ヶ月に1回の運営推進会議の実施や自治会活動(地域のお祭り)に参加しています。・毎月様々なボランティアの方々の訪問(お話し会・音楽療法・傾聴・作業療法等)により、楽しまれています。

(特徴)・食にこだわり、国産の物を提供しています。このたび「地産地消モデル施設」としての認定をいただきました。・社長(医師) 宅から徒歩3分圏内にある為、急変時の対応に迅速に対応できます。・本人、ご家族が"看取り"をご希望されれば、"看取り" も行ないます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は会議や個人面談、日頃の会話を通して現場の声に耳を傾けておられ、マッスルスーツを導入されたり、メンター制度の導入で職員の悩み事に迅速に対応されたり、産休や育休を取りやすく、業務内容を配慮されるなど働きやすい職場づくりに努めておられます。職員間のコミュニケーションが良く、職員の意見を運営に活かしておられ、職員の働、意欲や質の向上につなげておられます。食事は利用者の好みを採り入れられ、旬の食材を使って事業所で手づくりされ、行事食や誕生日食、仕出し弁当、おやつづくり、子供たちとのクッキーづくりなど食べることの楽しみを支援されています。協力医療機関の定期的な訪問診療や看護師の健康管理、歯科診療や口腔ケア、薬剤師の訪問など、日常的な体調管理や重度化や終末期を視野に入れたチームでの支援が家族の安心感や信頼感につながっています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
	項目	↓該当	取り組みの成果 áするものに○印		項目	↓該늷	取り組みの成果 当するものに〇印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:24.25.26)	0	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:10.11.20)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:19.39)	0	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2.21)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
0	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12.13)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
1	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:31.32)	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	Ω	1. ほぼ全ての利用者が				·

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1 .3		○基づく運営○理念の共有と実践地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ることを」をモットーに家族、地域の方との交流を作りながら、ご入居者様らしさを尊重して	地域密着型サービスの意義をふまえた事業 所理念をつくり、事務所内に掲示している。管 理者は、会議や職員との個別面談時、新人 職員のオリエンテーション時に理念を確認し ている。職員は理念を共有し、利用者一人ひ とりの思いを大切に日々のケアにあたる事で 実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	4月までは地域の方のボランティアが定期的に来ていたが、新型コロナの影響で4月以降は自粛が続いている。また、自治会に加入しており、地域の回覧板に当施設の情報を挟んで頂いている。	自治会に加入し、地域の溝掃除や神社の幟旗立てに参加している。事業所のパンフレットを地域の回覧板で回すなどして、事業所の啓蒙活動を行っている。昨年3月以降は新型コロナの影響で外部との交流を控えているが、それまでは読み聞かせや紙芝居、傾聴のボランティアが来訪し、米軍基地内のペリースクールの学生とクッキーづくりや歌での交流がみられた。併設保育園の園児とは、園庭や畑で日常的な交流があり、月2回の音楽療法を受け入れ、そこで得られる情報を介護計画に反映させている。家族や地域の人からは野菜や果物の差し入れがあり、散歩時やゴミ捨て時に地域の人と挨拶を交わしている。	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	毎月一回Drによる医療や認知症に関係する、講演会が院内であり、地域の人々が参加している。また、職員も参加しており、良い勉強となっている。		

自己	外	ルーノホーム かえじ 項 目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の評価を踏まえた上で、職員全員で自己評価を取り組み、改善点などを挙げ、質の向上に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について口頭と伝達 ノートで職員に説明している。自己評価は各 ユニットリーダーが職員から聞き取ったものを 管理者と話し合ってまとめている。評価を通し て新型コロナとどう向き合っていくか、職員の 自己管理や外出支援のあり方などを検討して いる。前回の外部評価をうけて、運営推進会 議の活性化と家族参加の促進、火災・津波時 の避難対策、個々に応じたサービス提供、職 員の育成と働きやすい職場作りを目標達成 計画にあげ、改善に取り組んでいる。	
5		〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、毎回、ご家族、警察、地域住民、地域包括センターの方に参加して頂いており、ご入居者様の活動内容についての件で、ご提案頂くこともあり、速やかに実現している。事故報告、ヒヤリハットも報告して介護現場でどのようなことが起こっているのか細かく報告している。身体拘束についての勉強会も行っておりより良い会議を目指している。	新たに傾聴ボランティアが委員として参加している。会議は、利用者状況、行事予定と報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価の取り組み状況、防災訓練報告などを説明し、身体拘束会議のあと、意見交換を行っている。新型コロナのため、6回中4回は、書面開催とし、事前に参加者に資料を送付し、意見や感想、質問を電話、FAX、メールで受け付けている。参加者からは、身体拘束に対する提案や職員の感染対策、利用者の健康状態を含めた対策について問い合わせがあり、家族からは励ましや感謝の言葉がみられた。	Γ
6		〇市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の生活の安全に取り組んでいる。 介護保険課ともわからないことがあった際は、	市担当者とは、管理者が直接出向いて相談し、助言を得たり、電話やメールで情報交換を行うなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や地域ケア会議時、電話などで情報交換を行うなど、日頃から連携を図っている。	

自	外	ブルーフボーム かえで 	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	体拘束の勉強会を開いて職員全員埋解して	「身体拘束適正化のための指針」を作成し、 内部研修で学んだり、運営推進会議で身体 拘束会議を行い、抑制や拘束のないケアに 努めている。スピーチロックに気づいた時は、 管理者が不適切な点を注意したり、職員間で 注意し合っている。玄関は施錠せず、外出し たい利用者には職員が一緒に畑や花壇に出 かけたり、外気浴をして気分転換を図ってい る。	
8		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてのマニュアルを 作成し、グループホーム会議などで、虐待に ついての知識を深めている。また、虐待を発 見した際は適切に対応するよう徹底してい る。また、言葉の虐待にならないよう声掛けに は意識して接している。		
9		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	必要がある方には既に活用している。また キーパーソンが遠方で、疎遠傾向なご家族 がいれば、権利擁護等の活用方を説明して いる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約時には契約書に沿って解りやすくご利用者とその家族他に説明を行っており、パンフレットや実費料金表などを提示して分かりやすく説明している。解約時にも理解、納得を図るよう心がけている。また、契約の解除の場合には、退居後に入所となる施設との橋渡しなど、様々な面で協力と説明をしている。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている		苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。家族からの意見や要望は、面会時、運営推進会議時、電話などで聞いている。主に担当職員が家族に電話をして信頼関係を構築し、日常生活の写真を掲載した事業所便りを送付して、家族が意見を言いやすい関係づくりに努めている。家族の希望を取り入れて、オンライン面会や日々の様子やバイタル等の記録を画像で送付する取り組みを導入している。面会できず本人が寂しがっていないかという問い合わせには、本人の様子を伝え、その都度丁寧に対応している。	
12	(8)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議または申し送りにて意見交換を行	は、年2回の自己評価シートの提出と併せ	

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	個々人の努力・実績を評価し、介護給付費の中から、最大限職員には給与で還元している。また、資格取得による昇給、頑張る者への褒章と昇給、毎年の昇給等処遇において適切な評価に努めている。また職員に自己評価表を記載していただき、振り返りを行いながら評価している。		
14		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	今年はコロナウイルスの影響で外部の研修 には積極的に参加できていない状況である。 内部研修は定期的に行ており、職員の知 識、技術の向上に努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、受講の機会を提供している。今年度は認知症ケア専門士とメンター制度の研修に参加し、受講後は報告書を提出している。法人研修は、外部講師(業者)を招いての感染予防研修の他、身体拘束や虐待など年に4回開催している。内部研修は、管理者を講師として、接遇、プライバシーの保護、新型コロナ、ターミナル、認知症の方の脱水、口腔ケア、成年後見制度、ユマニチュード、権利擁護、拘束・虐待、感染予防をテーマに実施している。新人研修は、管理者がオリエンテーションを行い、その後はメンター制度を活用して実施している。資格取得のために研修費助成制度があり、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会、岩 国市地域密着型サービス事業者連絡協議会 に加盟しており、案内があった場合には、積 極的に研修に参加しており、その場におい て、現場での問題点を改善するため、話し合 いをして現場改善に活かしている。		
16	交心と	▲信頼に向けた関係づくりと支援 ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族のみで見学・申し込みされた際は、後日 ご本人様が現在生活している場に行き、現 在抱えている悩みや、今後のどのような生活 を望んでいるのか、ご本人様の気持ちを理 解・把握するよう努めている。		

自	外	ルーンボーム かえで 	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	見学、申し込みをされた際は、ご家族の抱えている不安、要望を詳しく聞き、ご家族から見たご本人の今おかれている状態を把握し、今後について、ご家族と同じ目線で話をしている。		
18		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	ー概にグループホームという方向性のみではなく、他のサービスを含めて総合的に考え、ご 提案している。		
19		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は他者との対話の仲立ちの手伝いをしながら馴染んでいただけるよう努力している。 また、相性の良い方の席を近くにするなどの 工夫をしている。		
20		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会に来られた際は、各ご入居者様の様子を報告したり、ご家族と世間話をしたりと、家族の方と良好な関係が築けていると思う。また、家族の方の悩みや思いについても、聞かせていただき、ご家族と同じ立場に立って一緒に解決策を考えている。		
	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係や思い出を維持するために、ご入居者様・ご家族の意見を取り入れ外出・外泊の実施をしている。また、ご家族、友人の方にいつでも会いに来れる環境を作っている。現在はコロナの影響で実施できない状況が続いている。	家族の面会や兄弟、親戚、友人、近所の人の来訪がある他、手紙や年賀状、電話の取り次ぎなどの支援をしている。施設内に公衆電話があり、利用を支援している。利用者の希望で自宅近くの神社への初詣や墓参りに出かけたり、家族の協力を得て自宅への外泊や外出、墓参りや法事への参加など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーション・体操・掃除・洗濯の手伝い 等共に過ごす機会作りを多く設けてる。また 全介助で発語がない方でもレクリエーション の輪の中に入って頂き、楽しい環境づくりに 努めている。		

自	外	ルーノホーム かえじ 	自己評価	外部評価	5
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の状況を把握するため、ご家族 に連絡し把握している。		
Ш.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
24	(11)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	者様の気持ちや、思いを把握するよう努めて おり、居室担当の職員が中心となり、アセスメ ントをとった上で、ケアプランに活かしてい る。 意思疎通が困難な入居者様にはご家族		
25		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に聞いた生活歴や歴史、生きがいなど記録し職員が把握、共有できるよう保管している。また、親戚や近隣の友人など面会に来られた際は、ご入居者様との関係や、昔の話を聞かせていただくと同時に、面会に来られた方とのコミュニケーションを図っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、介護記録用紙に記録している。申し送りで担当職員が他の職員に 伝達している。また、公休の職員が出勤した 際は、介護記録用紙に目を通し、全職員が 把握できるよう、徹底している。		

自己	外	項 目	自己評価	外部評価	<u> </u>
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	, ,	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご入居者様とのコミュニケーションを図り、要望を聞いた上でご家族に相談するように務め、ご入居者様の気持ちや、要望を最大限活かせるよう、介護計画を作成している。また、ユニット職員全員で共有できるようにユニット会議も開き対応している。	計画作成担当者と担当職員が中心になってケアカンファレンスを行い、日々の介護記録からの情報に基づき、利用者や家族の要望、主治医、看護師、薬剤師などの意見を参考にして話し合い、介護計画を立てている。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、1年ごとに計画の見直しを行っている。利用者の状態が変化した場合は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子をケアプランに沿って個別に介護記録用紙に記録しており、記録を 基にケアプランの見直しを行なっている。		
29		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の買い物や通院をするのが困難なご家族に代わって職員が付き添いをしている。また、ご要望があれば入退院時の付き添いもしている。		
30		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族に聞いた生活歴や歴史、生きがいなど記録し職員が把握、共有できるよう保管している。また、親戚や近隣の友人など面会に来られた際は、ご入居者様との関係や、昔の話を聞かせていただくと同時に、面会に来られた方とのコミュニケーションを図っている。		
31	, ,	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週最低1回以上の医師による往診、また細かな変化にも日々医師と相談をしながら最適な治療が受けられるよう支援している。また、歯科医等往診もあり、調子が悪く受診へ行くことが困難な場合でも対応している。	力を得たり、職員が受診支援している。希望 者は歯科衛生士による月1回の口腔ケアや歯	

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	情報交換をしながら、受診や治療計画をたて、日常生活を自分らしく送れるように支援している。また医師より毎月一回利用者様個人個人の医療情報を作成して頂き活用している。		
33		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院施設の地域医療連携室とコミュニケーションをとり、情報交換をする。直接、医師・ 看護師と話をし、利用者の意思を尊重するように努めている。また医師より毎月一回利用 者様個人個人の医療情報を作成して頂き活用している。		
34		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	確認と、週最低1回以上(状態に応じて適宜 往診があります。)の医師による往診により、 重度や終末期の方のより良い暮らしのために 職員と連携し支援している。また、入居してい	契約時に「重度化や終末期の対応指針」に基づき、事業所でできる対応について家族に説明したうえで、重度化した場合や終末期のあり方、連絡方法について家族に承諾書やアンケートをとり、意向を確認している。実際に重度化した場合は、利用者や家族の意向をふまえてかかりつけ医と相談し、方針を決めて全員で共有して支援に努めている。職員は、終末期ケアや看取りの心構えなどの研修を行っている。	
35		○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとり の状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急 変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手 当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を 身につけている。	日頃から職員に『事故が起こるかもしれない』 という意識(リスクマネジメント)で関わるよう管 理者は指導している。どれだけ職員が気をつ けていても事故は起こってしまうので事故が 起こった後の対応にも事故報告書を踏まえ て職員に共有している。	対応した職員がヒヤリハット報告書、事故報告書に記入し、その日の職員で対応策を話し合い、リーダー、管理者に相談した上で記録している。他の職員には報告書を回覧して共有している。事故防止委員がユニット毎の事故を集計して全体会議で報告し、再発防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、緊急対応マニュアルを元に看護師から処置方法などを学んでいる。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の訓練の実施

自己	自外り		自己評価	外部評価	
	部	, ,	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎年定期的に行なっている。また、夜間想定訓練、緊急の火災はバルコニーへ避難するなどさまざまな状況を考慮して訓練している。	年2回併設施設と合同で火災を想定した通報訓練、避難訓練、消火訓練、避難経路の確認を利用者と一緒に実施している。消防署からは、施設内の防火設備を理解して、冷静に対応するように助言があった。水や乾パンなど備蓄品を整備し、賞味期限前に更新している。運営推進会議で訓練の報告を行い、地域との協力体制について意見交換しているが、協力体制の構築までには至っていない。	・地域との協力体制の構築
	(17)	人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷付けない言葉遣いや対応し、記録等も慎重に取り扱っている。家族のような	内部研修で接遇やプライバシーの保護について学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応が見られる時は、管理者やリーダーがその都度注意し、職員間で注意し合ったり全体会議で話すこともある。書類の保管には配慮し、守秘義務は遵守している。	
38		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせ、コミュニケーションを図り、その方の思いを引き出すような声掛けに努めている。また、言語での意思疎通が困難な方には表情や様子を素早く読み取り、ジェスチャーなど全身でのコミュニケーションを図っており、職員は常に待つという姿勢で自立支援を促している。		
39		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、一人ひとりの生活パターンを 大切にし、希望に添って支援している。強制 的な声掛けはせず、選択肢のある声掛けに 努めている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	1ヶ月に1回程度出張美容室(トラックが美容室になっている)に来ていただいている。またオシャレな利用者様も多いので毎日の着替え、整容等は気をつけて声掛けをしている。		

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	職員が日々の関わりの中で利用者様の食事の好みを聞きながら、食事が楽しみとなるような支援をしている。また職員は、準備、片付けまでが食事の時間として捉えているので、利用者様にはできる範囲で手伝って頂いている。	法人栄養士が利用者の希望を取り入れた献立を作成し、事業所の畑の収穫野菜や地産地消の旬の食材、家族や地域の人からの差し入れ野菜を使用して、主菜は法人の厨房(日曜は事業所)で、副食・ご飯は事業所で手づくりしている。利用者は、野菜の下ごしらえ、下膳、台拭き、食器洗いなどできる事を職員と一緒に行い、朝食と夕食を一緒に食べている。行事食(おせち、恵方巻き、ひな祭りのちらし寿司、そうめん、クリスマスなど)、好みの献立と手づくりケーキでお祝いする誕生日食、料亭の仕出し弁当、畑で収穫した焼き芋、餃子パーテイ、おやつづくり(おはぎ、たこ焼きケーキ、ホットケーキ、お好み焼きなど)、米軍基地のペリースクールの子供達とのクッキーづくりなど、食べることを楽しむ機会をつくって支援している。	
42		確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えている。また、 状況に応じて水分量が職員全員に把握でき るよう、水分摂取量を記録している。		
43		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、一人ひとりの力に合わせ自立支援を促す声かけをしている。口腔ケア、義歯の清掃、消毒についてはケアプラン生活チェック表にチェックしている。また月1回歯科衛生士の方が来られ、口腔内のチェックと職員への指導を行い、指摘があれば歯科受診に繋げている。		
44	(19)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	とりに合わせた声掛け、誘導をしている。ま	排泄チェック表を参考にして、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、利用者に応じた声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外項目		自己評価	外部評価	<u> </u>
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	便秘の予防に関しての会議を開き、個別にマニュアルを作成しており、日々の排泄状況を、朝礼や申し送りにて報告している。また、便秘対策としては、散歩、入浴、水分・食物繊維の摂取、体操、レクリエーションなど積極的に行なっている。		
46		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をして いる	のだが、利用者様のその日の気分に合わせ ながら、臨機応変に対応している。浴室、脱	入浴は13時半から17時頃まで、利用者の希望に応じてゆったりと楽しめるように支援している。利用者の状態によりシャワ一浴や部分浴、足浴、清拭を行ったり、入浴剤を使用して色や香りを楽しんでいる。入浴したくない利用者には職員を交替したり、時間をずらして声かけするなど、工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出後や、食後はゆっくりするよう声かけ、疲れを溜めないよう休息を促している。また、利用者一人ひとりの生活習慣を把握して、休息の声掛けをしている(昼寝のタイミング等)。そして、安眠を促す支援として冬場には湯たんぽを使用していただいている。		
48		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	当グループホームでは、毎週1回薬剤師が直接薬を持って来所し、説明(目的、用法、用量、副作用)付きの処方箋を基に説明を受けている。その処方箋には薬の写真も記載されており、大変わかりやすいものとなっている。また、週1回医師、看護師が来所し、状態の変化などを伝え、職員に適切なアドバイスをしている。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	b
己	部	境 日 	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	〇活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに担当をつけているので深く関われている。その中で生活歴、役割、嗜好品、楽しみ事を把握し気分転換につなげている。言語での意思疎通が困難な利用者様にはご家族に聞いて把握している。		
50	(22)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の関わりの中で利用有様の思いを扱んでいる。その中で並の会はおい思示の思想	初詣、園庭での桜の花見、併設保育園の園児との交流、畑作りと野菜の収穫、サツマイモ畑での収穫(他のグループホームとの交流)、事業所敷地内の散歩やゴミ捨てなどに出かけている。墓参りや自宅近くの神社に初詣に出かけるなど個別の支援をしている。家族の協力を得て、墓参りや法事、自宅への外泊などを支援している。新型コロナ発生以降は外出を自粛している。	

自己	外		自己評価	外部評価	5
2	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当グループホームでは公衆電話を設置しており、使用される際には、お金が必要な為小銭を所有している方が多い。また、買い物などに行く際は、お会計はなるべくご入居者様が行えるよう援助している。		
52		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	当施設に公衆電話を設置しており、自由に電話を掛けることができる。また季節ごとの手紙(年賀状、暑中見舞い)などもご利用者様に書いてもらうよう、支援している。		
53	(23)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		玄関には職員や家族からの季節の花を飾っている。共用空間は、吹き抜けの天井があり、 天窓から光が差し込み、明るく広々している。 利用者が活動しやすいように食卓やイスを配置し、テレビの前には大きなソファを置いてゆったりとくつろげるようになっている。堀り炬燵がある畳コーナーや小上がりで気の合う者同士が思い思いに過ごしている。台所で調理する姿が見え、音や匂いがして生活感を感じることができる。壁には利用者が職員と一緒につくった季節の作品や手づくりカレンダー、習字、利用者の写真を飾り、季節感を感じることができる。加湿器を設置し、気温や湿度にも配慮して、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54			TV、テーブル、ソファがホールにあり、利用者様がTVを観たり、本を読んだり、談笑したりと気のあったご入居者同士で思い思いに過ごしている。また、玄関ホールやホール内の小上がりにソファーやコタツが設置されており、独りになれる落ち着いた居場所づくりを工夫している。		
55	(24)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	ベッド以外は本人様の使い慣れたものを持ってきていただいている。TV、使い慣れたタンスで真空で馴染みのある空間を作って頂い	タンスや鏡台、テレビ、ソファ、机、イス、冷蔵庫、ラジオ、本、雑誌など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や利用者の作品、誕生日カードや色紙、カレンダー、ポスターなどを飾って居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している			

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム かえで

作成日: 令和 3 年 5 月 13 日

【目標	【目標達成計画】						
	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間		
1		今年は新型コロナウイルスの影響で行事を自 粛することが多くなっていた為、利用者の方が もっと喜んで頂けるサービスを提供する。	外出レクが難しい状況の為、施設内での行事を強化する。	施設内での行事に力を入れ、感染予防を徹底し、安全で楽しんでいただけるよう検討実施する。	3ヶ月		
2		入居者様が年々重度化している。	より安全なサービスが提供できるようケアに あたる。	嚥下状態や歩行状態の日々の観察、共有することの強化。また、異変があった際は、迅速に対応できるよう徹底する。	3ヶ月		
3		研修の充実	コロナの状況を見ながら研修に積極的に参 加する	コロナの状況を見ながらにはなるが、外部研修 し、知識の向上を図り、現場の質を上げる。	6ヶ月		
4							
5		早期には 白コ郭価項目の来品を記えすること					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。